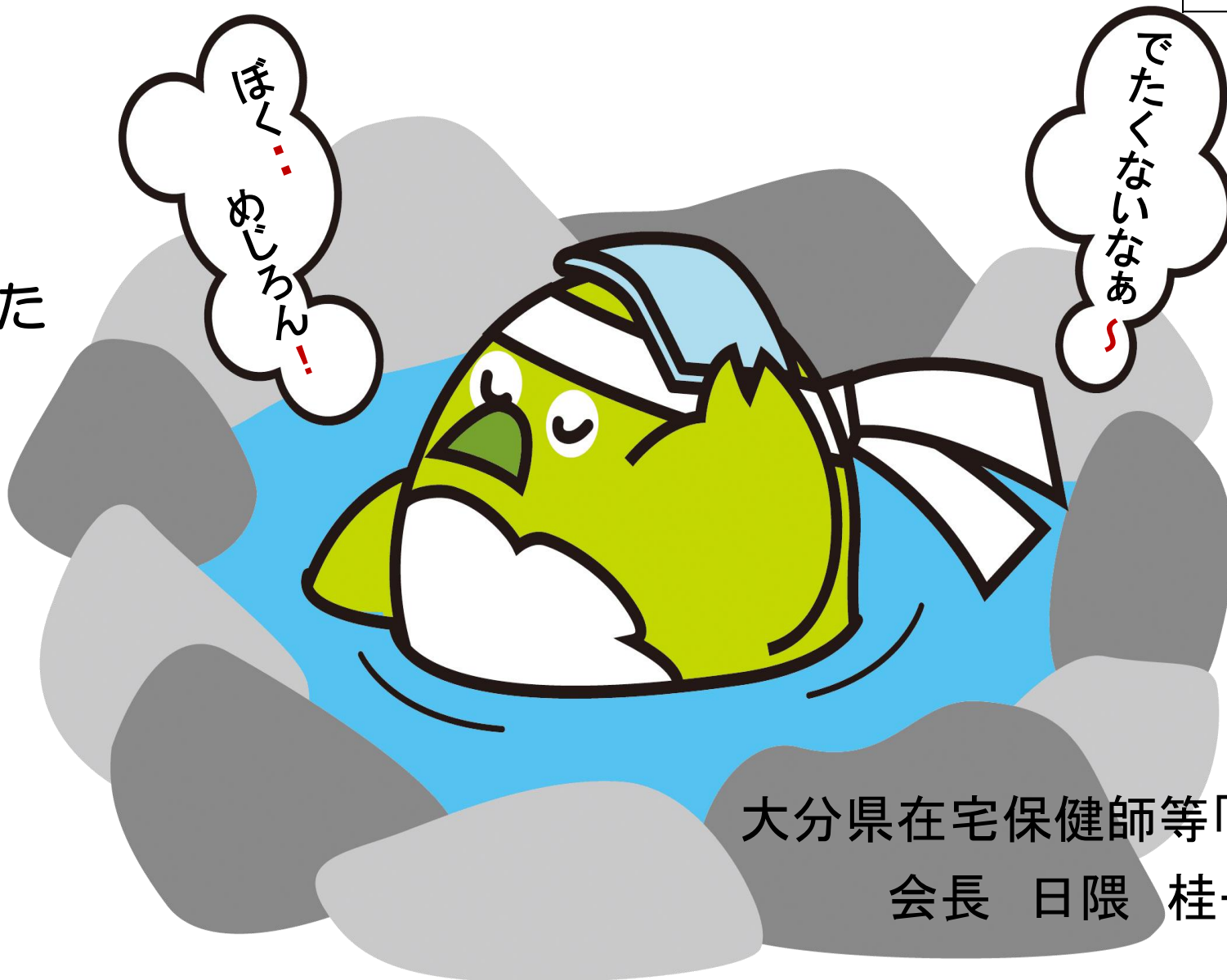




日本一の
おんせん県おおいた



大分県在宅保健師等「虹の会」
会長 日隈 桂子

お元気ですか訪問

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施
(令和元年度モデル事業)



大分県在宅保健師等「虹の会」

会長 日隈 桂子

全国在宅保健師等の会設置状況

国保中央会

1. 国保連合会保健師の設置を契機に推進(昭和58年2月)
2. 新・国保3%推進運動(昭和62年➡平成10年度より)

国の指針

1. 国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針(平成16年7月30日付)
2. 上記指針の一部改正(平成26年4月1日付)
3. 高齢者の医療の確保に関する法律に基づく保健事業の実施等に関する指針
(平成26年4月1日)

※ 国保連は、在宅保健師等の組織化支援、保険者派遣

設 置

昭和51年新潟・昭和57年秋田・昭和58年長野・・・平成 3年大分(全国で6番目に設置)

現 在 (令和元年9月現在)

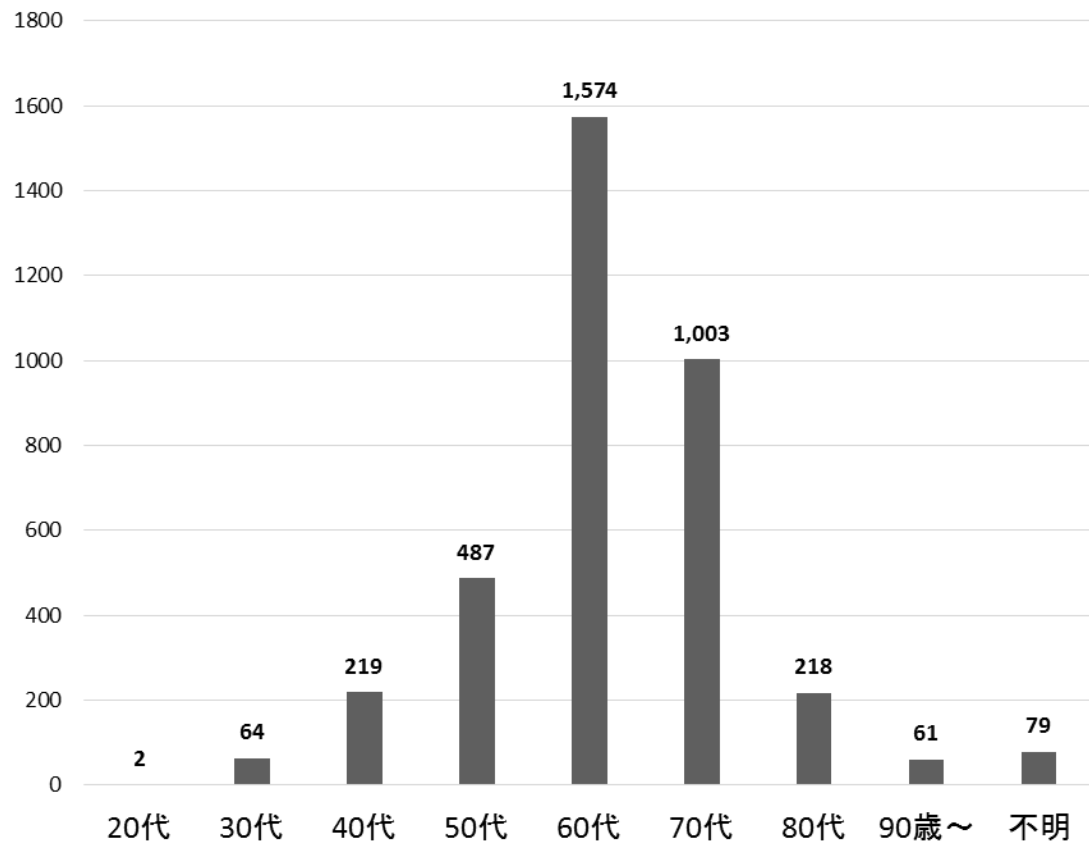
40都府県設置 (未設置:北海道・愛媛・徳島・熊本・佐賀) 会員総数 3,707人

都道府県在宅保健師等会 全国連絡会（平成18年9月28日設置）

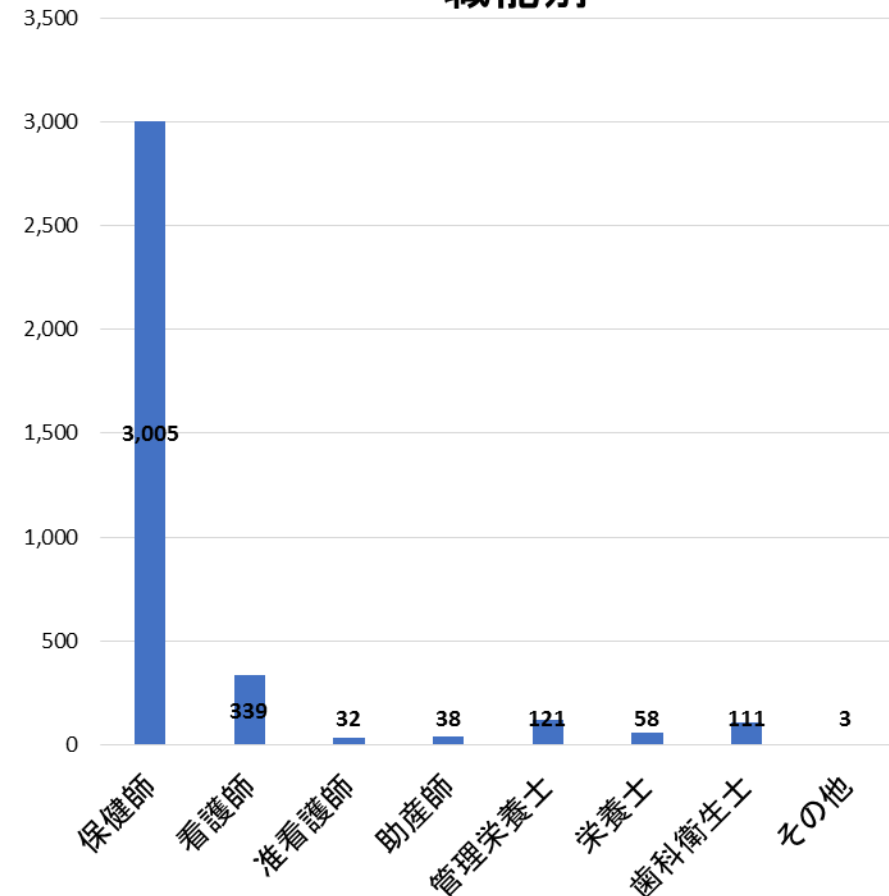
＜組織＞ **6ブロック**（東北・関東甲信越・東海北陸・近畿・中国四国・九州）

＜構成＞

年齢構成



職能別





大分県在宅保健師等「虹の会」

<会則>

本会は、地域における保健活動の重要性を認識し、各会員の保健業務の経験に基づき地域の保健活動に寄与するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

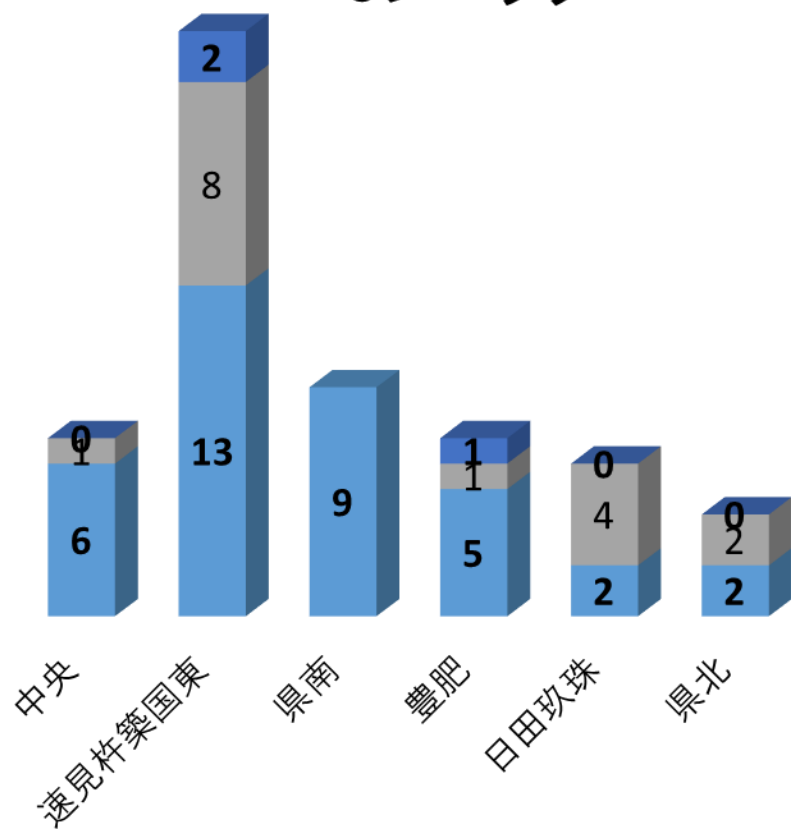
<事業>

1. 国民健康保険団体連合会・市町村等が実施する保健事業に関すること
2. この会の活動推進のための調査研究に関すること
3. 各地域の包括的活動(健康づくり等)に関する情報交換及び支援に関すること
4. 保健活動に関する研究会、講演会等に参加すること
5. 関係機関との連絡調整に関すること
6. その他 目的を達するために必要な事業

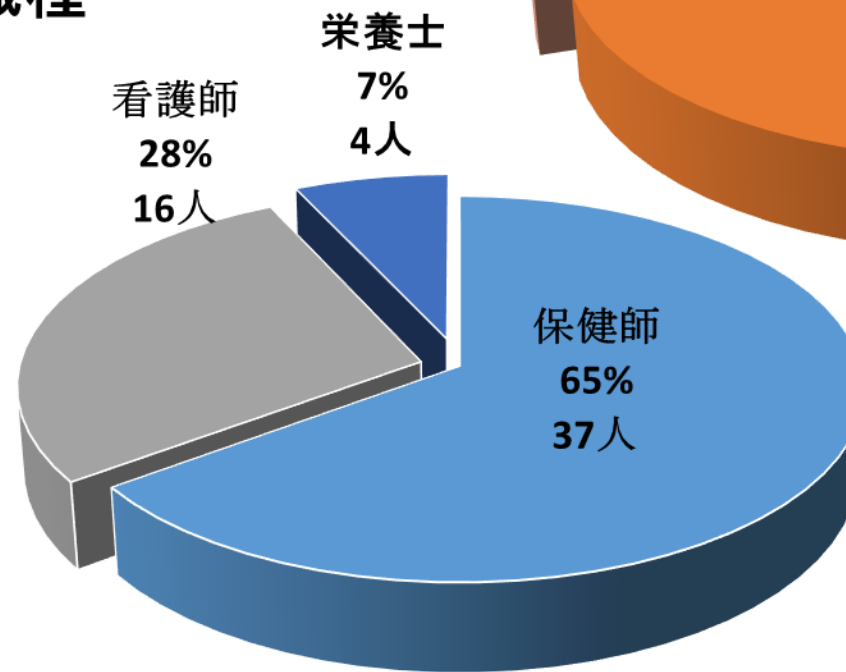


「虹の会」

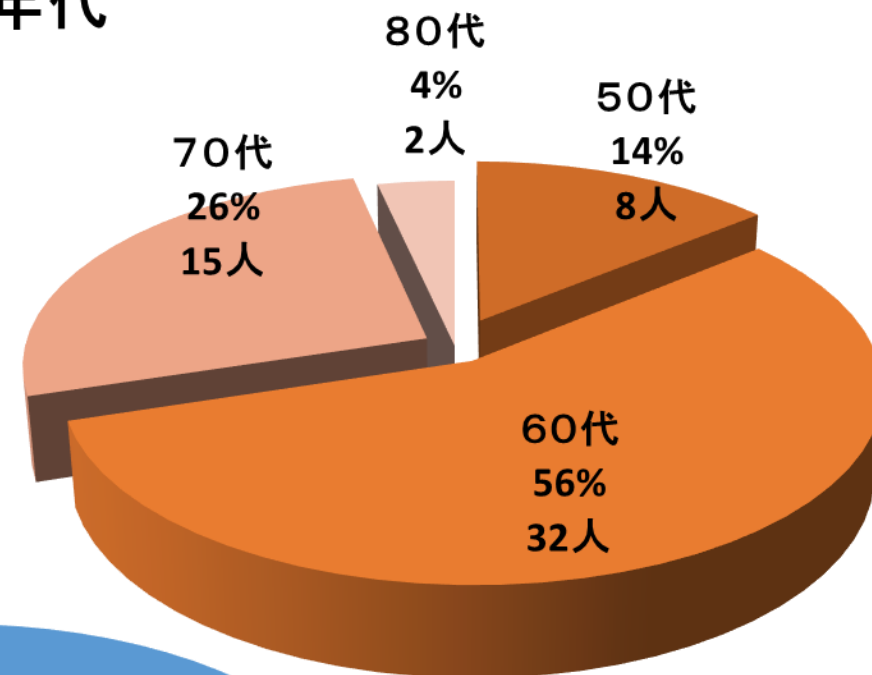
6ブロック



職種



年代





「虹の会」

「虹の会」として活動

1. 総会及び研修会

(研修会2回・国保地域学会・視察研修等)

3. 地区活動：6ブロックそれぞれで地区総会・研修会(認知症、フレイル予防等)

※まつり等のイベント会場で健康相談

※各地区「サロン」や「集いの場」において虹の会作成の紙芝居等による健康教育

「会員」の個別活動

1. 常勤・非常勤勤務：行政機関(保健・福祉・介護・保険等)・医療機関・介護福祉施設

2. 地域活動：いきいきサロン等の高齢者支援・ボランティア活動





「虹の会」活動の見直し

平成30年度第3回運営委員会（令和元年3月）

1. 平成30年度都道府県在宅保健師等全国連絡会報告より

- ・「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」に関する講演や他県の取り組みについて報告あり。



2. 現状

大分県「虹の会」でも、個人やブロックでの活動に加え「全体での取組が必要」

- ・ 会員が個々に地域で様々な活動（サロン、行政の国保部門・介護部門に雇用、民生委員、健康推進員など）をしており、「虹の会」としては、ブロック別を実施するイベントでの健康相談や健康教育が主な活動である。
- ・ 退職者に参加を勧めるにあたって「虹の会」の全体活動があればアピールできる。
- ・ 国保被保険者への重複多受診世帯への訪問実績がある。



3. 事務局

「虹の会」としての県下で統一した活動が必要ではないか。

- ・ 市町村が実施する地域保健活動や介護予防事業に、組織として貢献できることが多い。
- ・ 行政における保健・医療・福祉政策に関する情報収集が図れる。（現状と今後の動き）
- ・ 組織として活動できると思われる情報を提供すること。



「虹の会」への期待

事前協議

(令和元年6月～)

大分県（高齢者福祉課・国保医療課）
大分県後期高齢者医療広域連合
大分県国民健康保険団体連合会

<県・高齢者福祉課>

- ・「通いの場」は住民主体で運営
- ・ハイリスクアプローチは難しいのが現状

<県・国保医療課>

- ・「通いの場」においても、疾病予防や重症化予防の取り組みが必要
- ・必要な保健事業が年齢で途切れることなく、引き継がれること

<大分県後期高齢者医療広域連合>

- ・ 本格実施を見据え、モデル市を選定し、『介護予防との一体的実施の先行的取組』をおこなう
- ・ 健康状態不明者の把握（健診受診勧奨事業の検討も併せて）にも取り組む
- ・ 在宅保健師会「虹の会」はこれらの事業に協力可能か

<大分県国保連合会>

- ・ 本事業について、研修会の実施、KDB活用支援、支援評価委員会による支援
- ・ 在宅保健師等「虹の会」へ、昨年度の運営委員会で一体的実施の説明や、県や市町村の介護予防事業等について情報提供し、「虹の会」として活動できるか検討している
- ・ 在宅保健師会が、本事業に貢献できるよう調整したい

『令和2年度以降 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を推進するための
特別調整交付金基準として考えられる案』より

高齢者に対する支援内容

(1) 高齢者に対する個別的支援(ハイリスクアプローチ)

ア 低栄養防止・重症化予防の取組

イ 重複・頻回受診者、重複投薬者等への相談・指導の取組

ウ 健康状態が不明な高齢者の状態把握、必要なサービスへの接続

(a) KDBシステム等により抽出した過去1年間のレセプト情報等をもとに、医療や介護サービス等につながっておらず健康状態が不明な高齢者や閉じこもりの可能性がある高齢者等について抽出する。

(b) 上記(a)の高齢者に対するアウトリーチ支援を行い、後期高齢者の質問票や各種チェックリスト等により健康状態や心身機能を把握し、相談・指導を実施する。また、必要に応じて、受診勧奨など適切な医療・介護サービスにつなげ、生活習慣病等の未治療・治療中断者に対する受診勧奨、通いの場等への参加勧奨などを行う。

(2) 通いの場等への積極的な関与等(ポピュレーションアプローチ)

- ア 通いの場等において、フレイル予防の普及啓発活動や運動・栄養・口腔等のフレイル予防などの健康教育・健康相談を実施する。また、KDBシステム等により把握した地域の健康課題をもとに、具体的な事業メニューや教材、運営方法など取組の充実に向けたアドバイス等を実施する。なお、実施に当たっては、多くの通いの場に積極的な関与を行うこととし、特に、これまで医療専門職が関わってこなかった通いの場については、計画的に関わるよう努める。
- イ 通いの場等において、後期高齢者の質問票を活用するなど、フレイル状態にある高齢者等を把握し、低栄養や筋力低下等の状態に応じた保健指導や生活機能向上に向けた支援等を行う。また、状況に応じて、身長、体重、血圧等の測定や握力等の体力測定を実施し、高齢者の全身状態の把握に努める。
- ウ 通いの場等における取組において把握された高齢者の状況に応じて、健診や医療の受診勧奨や介護サービスの利用勧奨などを行う。

大分県国保連合会保健事業支援・評価委員会

(第3回 令和元年9月24日)

＜保健事業支援・評価委員の意見より＞

- 市町村では、ヘルス、国保、介護、福祉（障がい・母子）等に業務が分かれる中、「一体的実施」のイメージができていく状況にある。「ヘルスも高齢者をサポートできる」ということが理解できるよう、モデル事業でその過程を丁寧にやってはどうか
- 「虹の会」は、ハイリスクアプローチや個への支援ができるので、対象者の健康状況を把握し、市町村に「繋ぐこと」を役割としてはどうか。それを受けて、市町村がどのように対応するのか。行政だけではできないこともあり、自治組織、民生委員、健康推進員、愛育会などの住民組織にどう動いてもらうかも重要。これが、市町村保健師の役割として重要な部分となる。
- 事業終了後の「実践報告会」がとても重要。部署を越えて「市町村」として取り組むとことによって、関係各課の管理職等が本事業の連携についての重要性を意識してもらえることが大事である。単に方法論にとどまらないことも伝える。

健康状態不明者訪問の調整（事務局）

（１）健康状態が不明な高齢者の状態把握に係る打ち合わせ（９月２５日）

- ＊モデル事業、健康状態不明者の状態把握の目的の再確認
- ＊通知文書、記録票及び質問票、不在連絡票、
- ＊訪問日程・体制
- ＊訪問後のカンファレンス
- ＊必要物品（身分証明書・関係パンフ・受診勧奨用の資料等）

（２）その他

- ＊モデル市との連絡調整（広域連合を中心に）
- ＊後期高齢者広域連合との委託ケイヤク
- ＊有償ボランティア保険（県社協）
- ＊事務局も実際に家庭訪問に携わる



菩提樹まちかどサロン「福ろう」
（杵築市）



健康状態が不明な高齢者の状態把握(お元気ですか訪問)

(令和元年9月25日打合せ)

1.事業についての説明

「健康状態が不明な高齢者の状態把握のための訪問」について

大分県後期高齢者医療広域連合及び大分県国民健康保険団体連合会より説明あり

2. モデル事業を受けるにあたって

目 的:モデル事業を通して、組織全体としての活動として可能かどうか検証するとともに、虹の会の体制づくりにかかせない環境因子を探り、今後整備していく。

情報及び資料:広域連合、モデル市、国保連合会より情報及び資料提供を受ける

体 制:国保連合会(事務局)が、虹の会・広域連合及びモデル市との連携調整を図る。

訪問はモデル事業のため、運営委員と該当ブロックからの保健師で「二人体制」とする。

期 間:10月～11月 (*家庭訪問)

実施内容:①家庭訪問による実態調査、健診受診勧奨、「サロン」及び健康増進に向けた情報提供の実施

②訪問終了後にカンファレンスを行い、市、広域連合等に訪問結果を報告する

③目的の検証、評価



お元気ですか訪問 (10月～11月実施)

＜対象者＞ A市 9人・ B市 5人 ※訪問辞退の連絡 3人あり

＜訪問日数＞ A市 6日間 ・ B市 3日間

＜一人あたり訪問に要した時間＞ 48.2分/人

＜訪問に関わった保健師＞ 延べ28人 (実数12人)

※ 「虹の会」 9人

・ 運営委員6人 (神品・米谷・日隈・長野・河村・伊南)

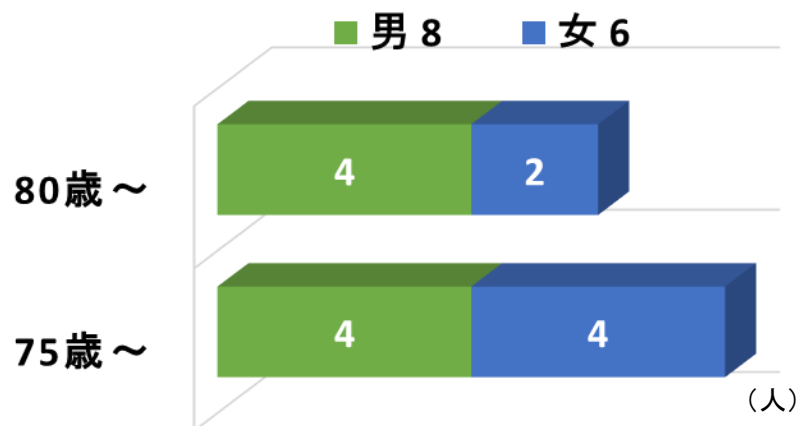
・ ブロック会員3人 (加峰・福光・小原)

※ 国保連合会 (事務局) 2人 (大平・藤野)

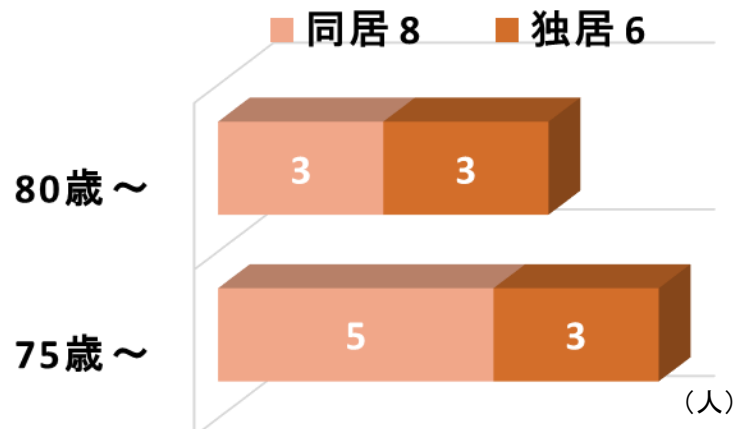
※ 広域連合1人 (梶原)



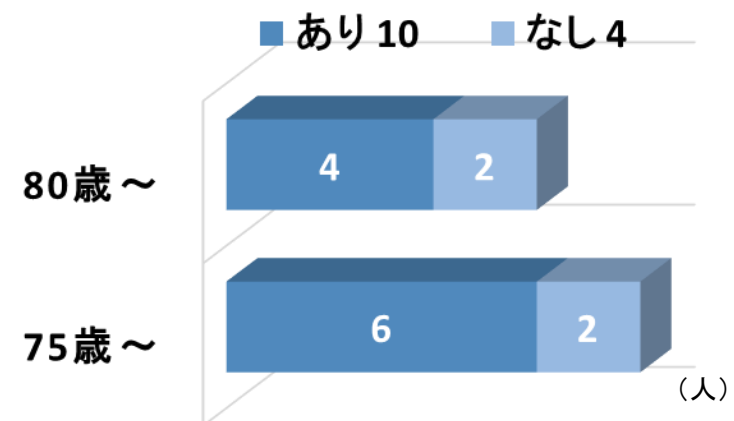
<対象者（性・年齢）>



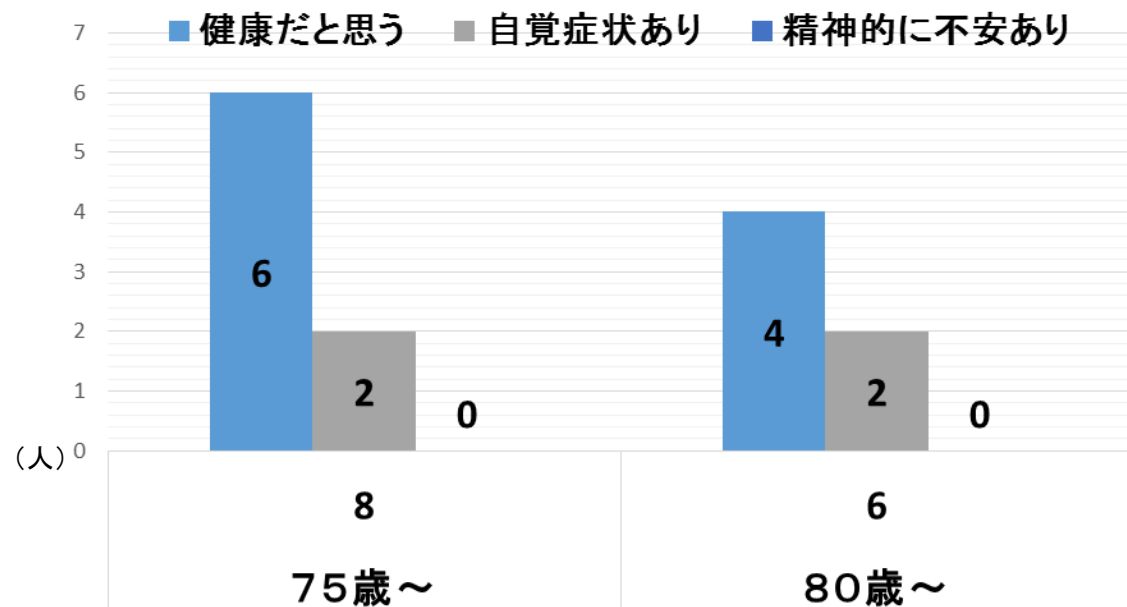
<家族構成>



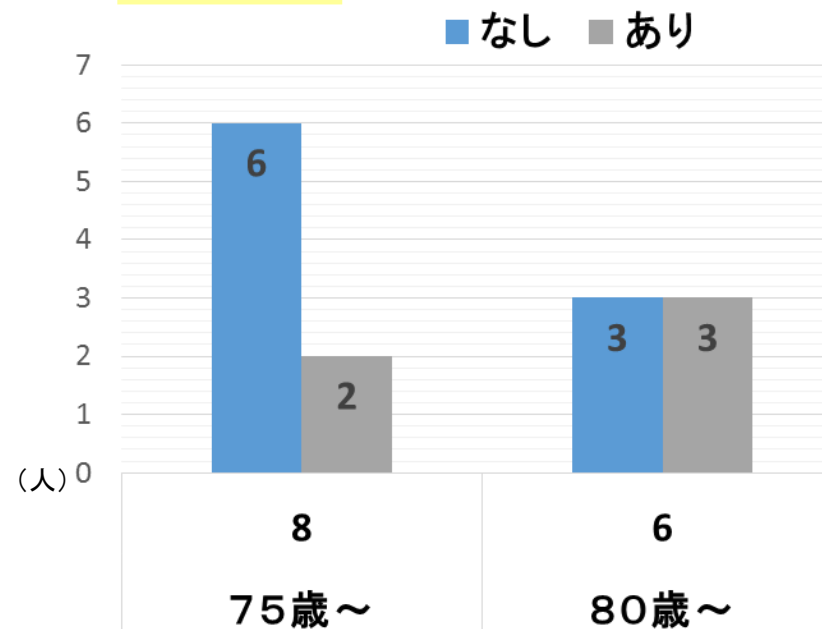
<仕事（稼業・勤務）>



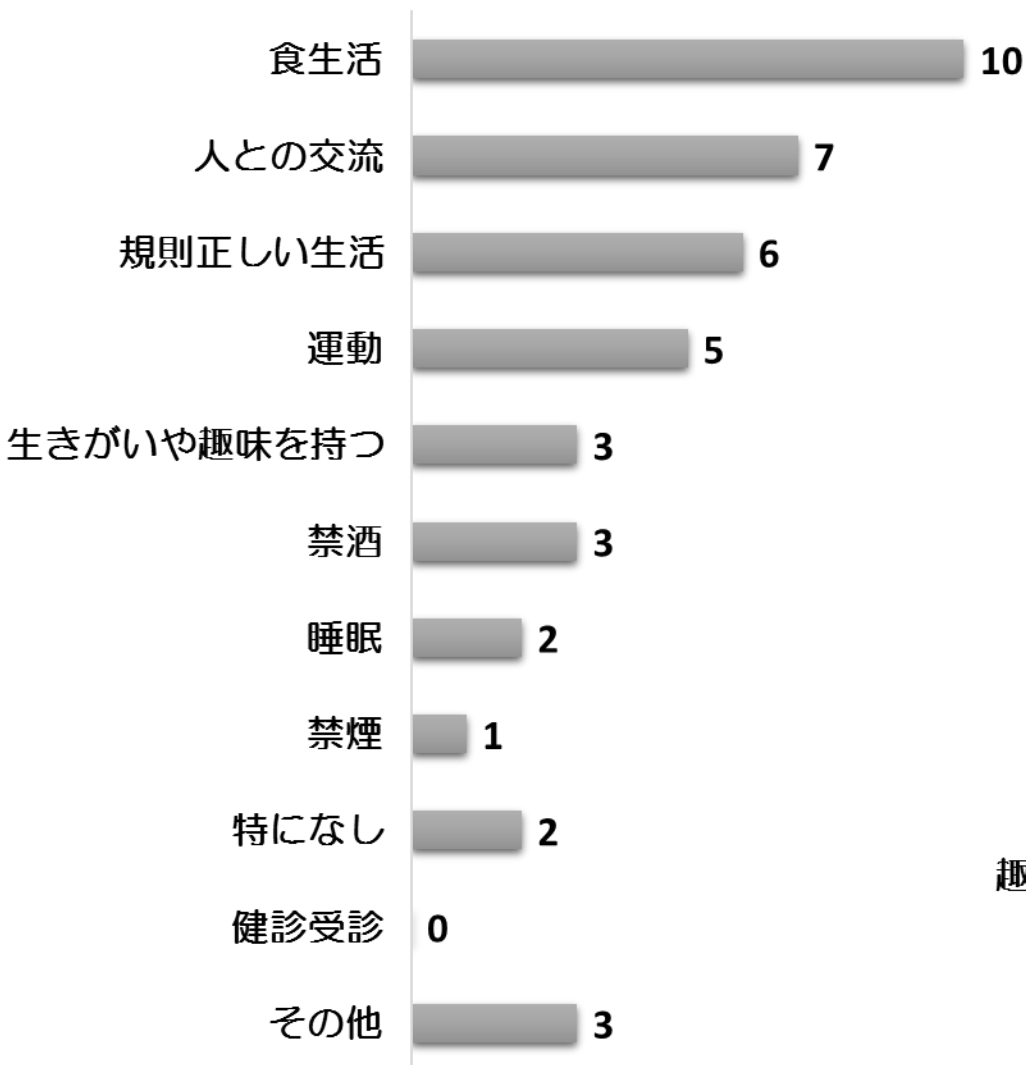
<健康意識>



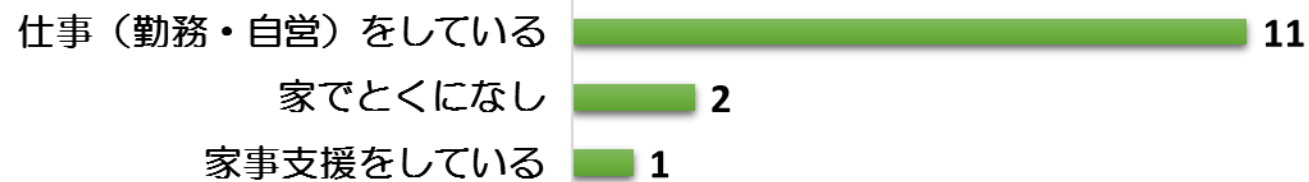
<病歴>



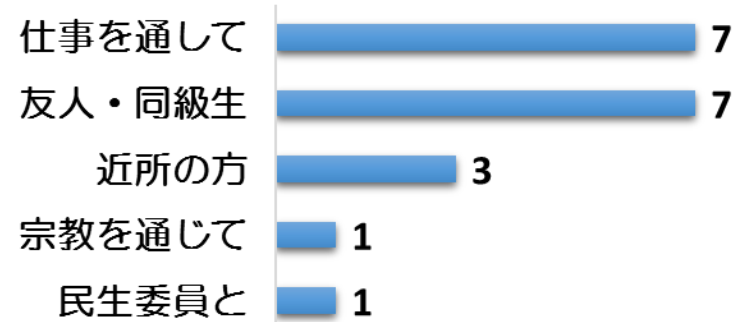
<気をつけていること（複数回答）>



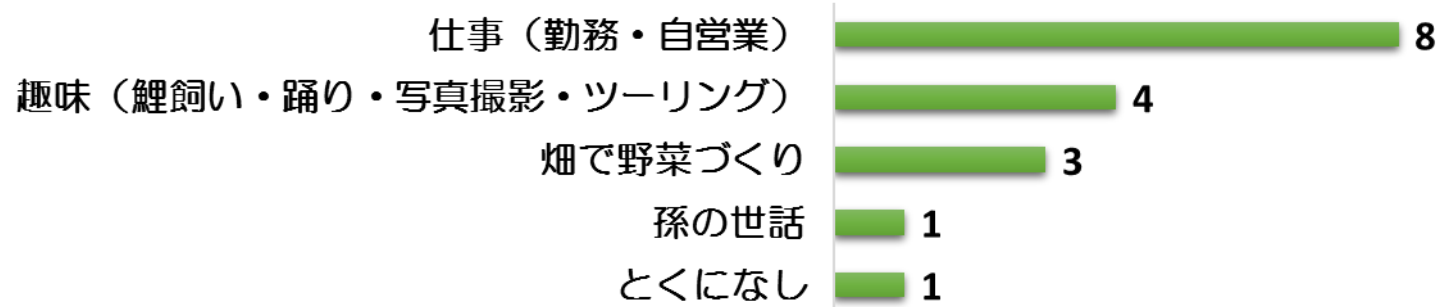
<一日の過ごし方>



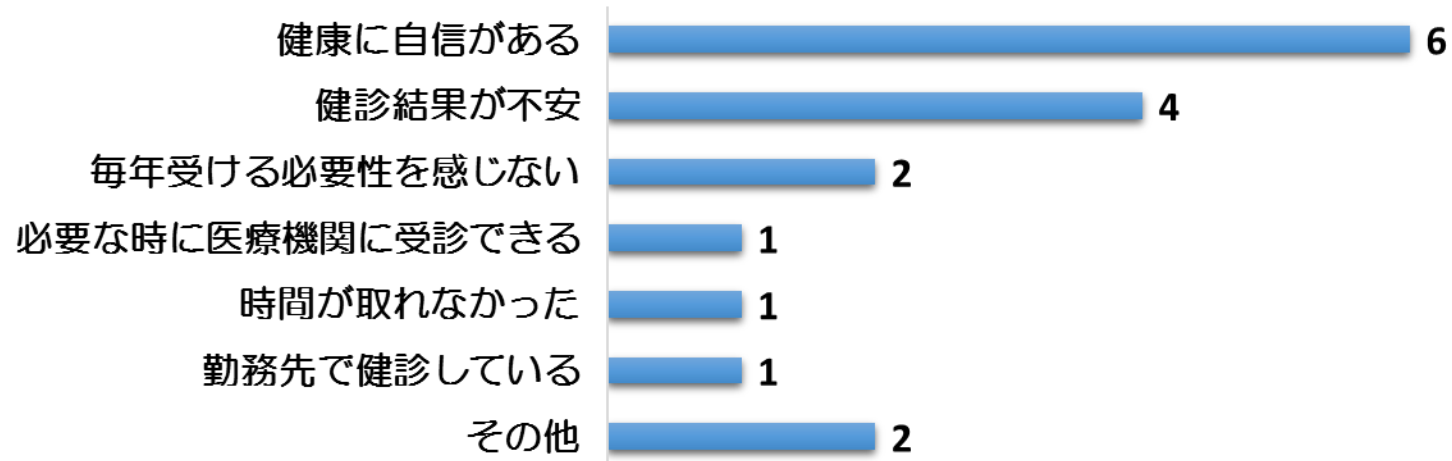
<交流（複数回答）>



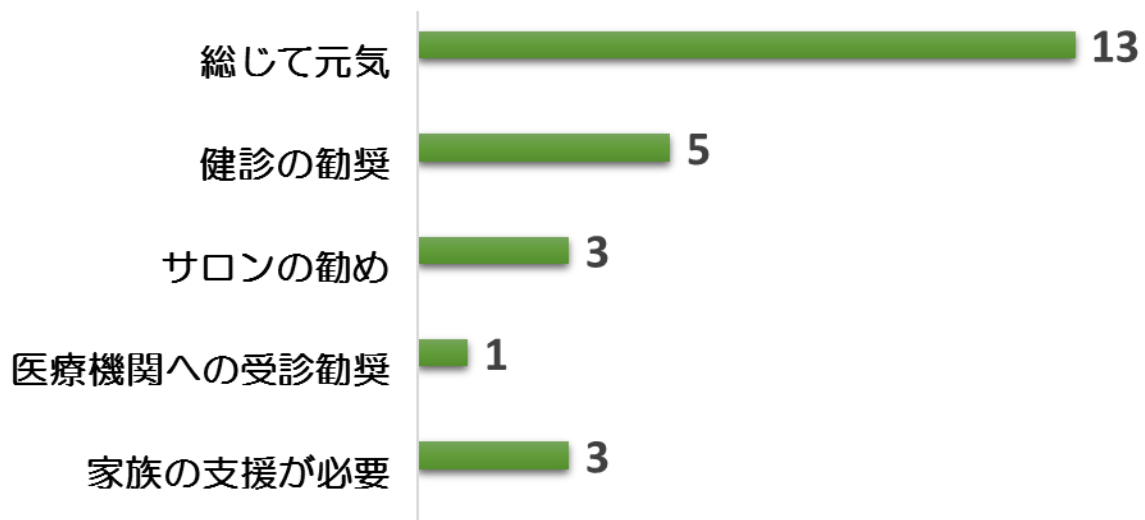
<生きがい（複数回答）>



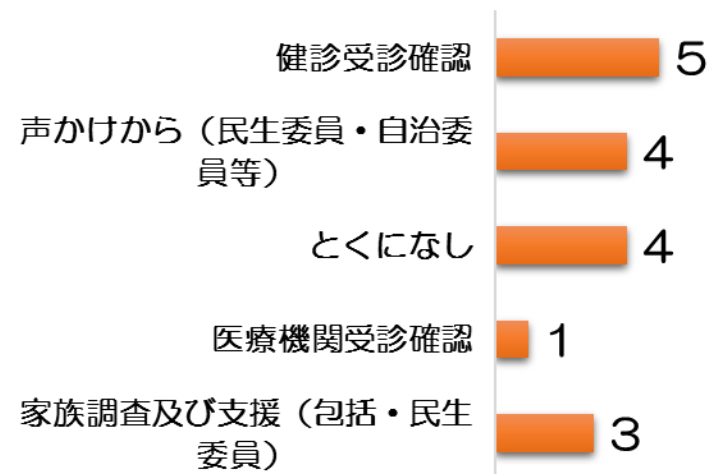
<健診の未受診理由（複数回答）>



<訪問者の対応（複数回答）>



<カンファレンス結果（複数回答）>



家庭訪問後のカンファレンス

訪問に携わった「虹の会」の保健師から1事例ずつ訪問結果を報告し事例に関する質疑応答、これを受け、今後の支援、訪問結果からの課題などを意見交換を行った。

B市 11月1日 (5事例)

- ・ B市(市民生活課・高齢者福祉課・
地域包括支援センター)
- ・ 大分県国保医療課
- ・ 虹の会(加峰・神品・河村・日隈)
- ・ 後期高齢者医療広域連合
- ・ 国保連(事務局)

A市 11月12日 (9事例)

- ・ 杵築市(健康長寿あんしん課・医療介護連携課)
- ・ 虹の会(小原・長野)
- ・ 後期高齢者医療広域連合
- ・ 国保連(事務局)

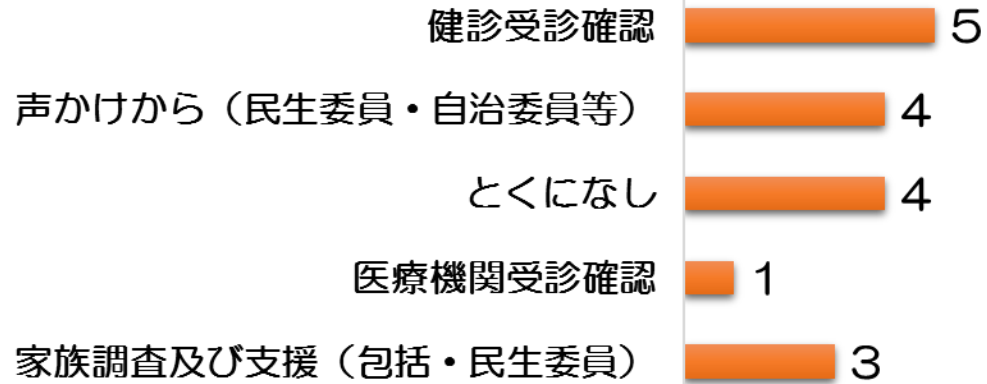
- ・ 通知文書・記録様式についての検討が必要。
- ・ 仕事をしていたときは健診を受けていたが、退職後からは受診していない。10年、20年ととぎれており、**保険のつなぎ目の対策**が必要。
- ・ 元気そうに見えても高齢者の場合はほんのちょっとしたことで体調が崩す。何かあったときに、本人が**どこにSOSを出せばよいか情報提供**しておくことが大事。
- ・ 独居の人も多く、**民生委員との連携**が必要。
- ・ フォローの必要性の有無、**必要なフォローは何か**(家族も)、**どの課・係が対応するのか**協議する。
- ・ 今回の事例は市役所周辺でありスーパーや公民館に近かく便利な地区であったが**山間部の場合**は、生活スタイルも異なるため、どのようになるのか検討が必要。
- ・ 家族がいる場合、**国保と後期で分けるのではなく、家族丸ごと情報共有**しておくことが大事。



・ ・ ・ その後の状況

家庭訪問結果が、市や広域連合でどのように活用されたか、A市・B市及び後期高齢者医療広域連合の担当者に確認中 ➡ 次年度へ継続予定

カンファレンス結果（複数回答） 2019年11月



経過（確認） 2020年1月

| | |
|--------------------------|----|
| 健診の受診者 （年末で健診日が少なかった） | 1名 |
| 民生委員等による声かけ | 4名 |
| 医療機関受診 | 0名 |
| 家族調査・支援 | 3名 |



モデル事業報告

高齢者の保健事業セミナー(2019年12月17日)

主催:大分県国保連合会

共催:大分県(国保医療課・高齢者福祉課)/大分県後期高齢者医療広域連合

モデル事業実践報告

＜健康状態が不明な高齢者の状態把握、必要なサービスへの接続＞

家庭訪問による高齢者の状態把握の取組

大分県在宅保健師等「虹の会」 会長 日隈桂子

グループワークでの意見

・本事業について

ライフステージを通した企画・運営・調整をすることに意味があると理解した。

一般介護予防事業とのすみわけ、現在実施している健康教育や健康相談等と、これらの事業がどう違うのかわからない。

・体制づくりについて

各課の連携、人員配置(専門職含む)など協議中である。

次年度実施は難しい。令和5年までの準備期間で、しっかりつめる必要がある。

機構の見直し、専門職の確保など組織体制の検討が急務である。

実施中のサロン等への講師派遣等 関係機関との調整が必要である。

・モデル事業報告について

具体的な取組手順や、実施後の連携、課題などを理解できた。

地域で活動している在宅保健師会、住民組織等の活用(健康づくり組織・民生委員等)の検討

課 題

「自治体」との連携

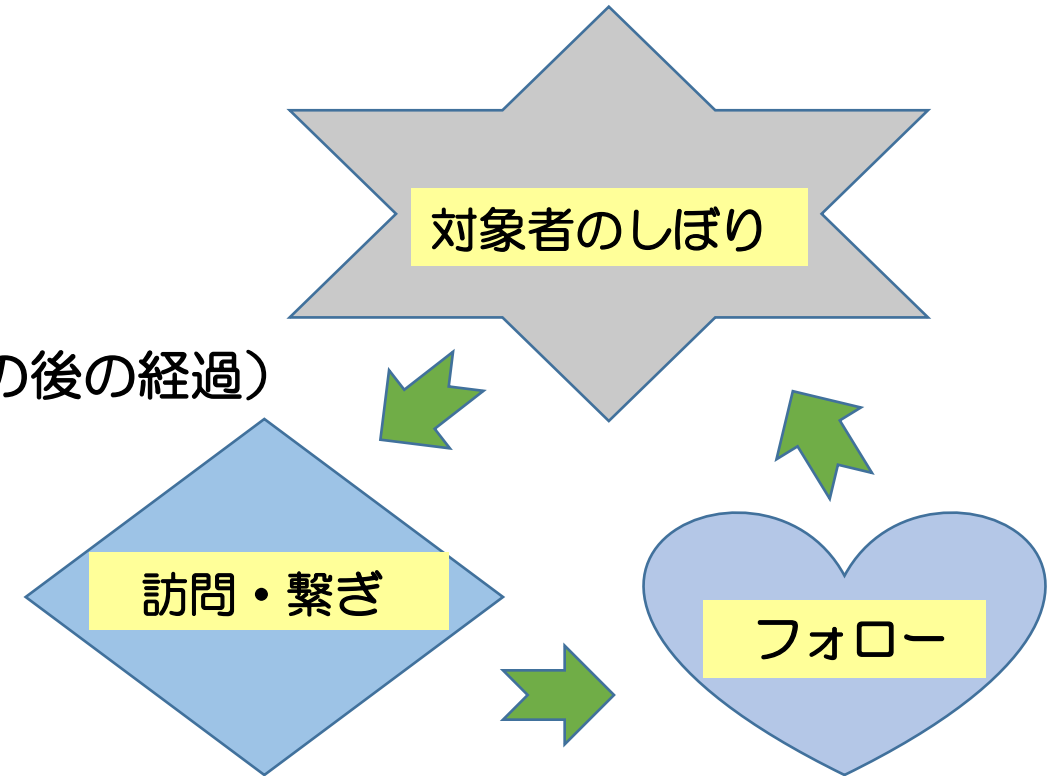
1. 自治体での窓口一本化
2. 情報収集（対象者・保健医療福祉情報等）
3. 引継ぎ（訪問前後のカンファレンス・その後の経過）

「虹の会」体制強化

1. 虹の会 運営委員会での協議
2. 会員周知 情報共有（個人情報除く）
3. 保健師会員の研修
4. 会員の勧誘

※虹の会事務局（大分県国保連合会）との連携強化

※大分県後期高齢者医療広域連合との連携





© dak



ご清聴ありがとうございました！

大分県在宅保健師等虹の会